

ID No.	2068
研究課題名	新規乳がん関連遺伝子産物に対する阻害剤の開発
研究代表者	仙波 憲太郎 (早稲田大学・教授)
研究組織	
受入教員	井上 純一郎 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	中山 淳 (早稲田大学・助教)
研究報告書	
<p>受容体型チロシンキナーゼを切断する膜貫通型プロテアーゼとして現在までにTMPRSS4/2, Hepsin の三種を同定しているが、これらが切断する受容体型チロシンキナーゼの探索をさらに行い、HepsinがFGF受容体ファミリーキナーゼ(FGFR1-4)を切断することを明らかにした。突然変異体を用いた解析により、HepsinによるFGFR受容体の切断部位候補を同定したが、切断部位近辺の配列は今までに同定した他の受容体チロシンキナーゼの切断部位とは高い類似性を示さず、これらプロテアーゼの基質特異性の低さを示唆するものであった。スクリーニング系の確立には、高い効率で切断が起こるプロテアーゼ-基質の組み合わせが必要であるため、今までに得られたプロテアーゼ及び受容体チロシンキナーゼを用いて、これらを発現させた細胞での受容体チロシンキナーゼの切断をウエスタンブロッティングにより確認し、高い切断効率を示した組み合わせを用いてスクリーニング系の構築を今後行う予定である。</p>	